

サイエンスブックスの市町村への貸し出し

振興部

平成23年秋に、高橋教一教育長が道立教育研究所を視察された。その際、「サイエンスカー・テラ21」に、図書を積載して巡回するアイデアをいただき、道立教育研究所と道立図書館とで調整を進めた。理科教育センターは「おすすめ理科読本リスト」を作成し、道立図書館は図書購入と装備を行うこととなった。平成24年度には、購入した図書を「テラ21サイエンスブックス」と名付け、移動理科教室の際に学校で貸し出す事業を行った。

〔キーワード〕 理科読 科学図書 読書活動

1 図書の選定

理科教育センターが選定した購入図書の候補を、生涯学習課読書推進グループ、道立図書館、理科教育センターの三者により、次の観点で精査した。

- ① 対象となる年齢層
- ② 扱われている領域
- ③ 発行年（内容が古くないか）
- ④ 絶版の有無
- ⑤ 読者の科学的関心を高める内容

検討の結果、最終的に233冊の購入図書を決定し、「おすすめ理科読本リスト」と名付けた。

2 図書の購入

図書の購入にあたり、道立図書館が平成23年度に申請・認可されていた「住民に光をそそぐ交付金」を活用することとした。この交付金により、選定した233冊の図書を5セット（計1,165冊）購入し、そのうち2セットを理科教育センターで、3セットを道立図書館でそれぞれ管理することとなった。

道立図書館では購入した図書に、保護用の透明シートと、貸出先で活用できる貸し出しカードを装備した。道立教育研究所では、図書運搬用の段ボールと、保管場所としてカリキュラム支援室に本棚を準備した。

3 読書活動推進プログラムでの位置付け

生涯学習課では平成24年度より「子どもの読書活動推進プログラム」を策定し、読書活動の充実を目指した取組をしている。主な取組である「子どもを読書好きにするための取組」に、推薦図書（スタンダード図書）の選定・普及が

あり、先のリストをスタンダード図書の位置づけで公表し、サイエンスカーにより推薦図書を普及することとしている。

4 市町村への貸し出し事業

平成24年度の貸し出し事業は、理科教育センターが行う移動理科教室に併せて行った。事業開始にあたり、サイエンスカーに積載する図書に「テラ21サイエンスブックス」と名称を付け、移動理科教室対象校へ貸し出した（図1）。

(1) 対象校数・対象児童数

計12町19校、児童数計約500名

(2) 実施方法

- ① 移動理科教室でのブックトーク
- ② 学校への貸し出し

活用方法は学校に任せる。移動理科教室が複数校での合同実施だった場合、対象校で協議して活用方法を決める。

- ③ 3ヶ月後に返却

送料は道立教育研究所が負担する。

(3) アンケートの実施

「テラ21サイエンスブックス」を返却する際に、教員（学校）と児童を対象としたアンケートを実施したので、その結果を報告する。

- ① 児童へのアンケートの集計結果（図2）

回答結果より多くの児童が、サイエンスブックスを楽しんでくれたことがわかる。さらに、「本をもっと読みたい」、「本を読むことが好きになった」と回答した児童も多くいた。このことから、本事業は「子どもを読書好きにする」ねらいを達成していると分析できる。

さらに、児童の発見や不思議を喚起しており、科学的な興味・関心を高める効果もあったと考えられる。

② 教員（学校）へのアンケートの集計結果（図3）

教員もおおむね本事業の効果を実感しているようだ。読書の意欲を高めることに対してあまりそうは思わないとする理由として、「もともと読書嫌いの子どもにはひびかないものだった。」などの意見があった。

また、貸出期間が短いという意見が多かった。3校合同の移動理科教室で貸し出さ

れると、1校あたり1ヶ月の貸出期間となってしまうことが大きな原因である。アンケートの結果で最も意見が多かったのは貸出期間に関するものであった。

5 今後の課題

貸し出し方法や期間の設定について、今年度の反省をふまえて検討していく必要がある。本事業により、子どもたちをますます読書好きにし、科学的な興味・関心を高めたい。

（よこやま ひかる 振興部）



図1 学校へ貸し出した「テラ21サイエンスブックス」

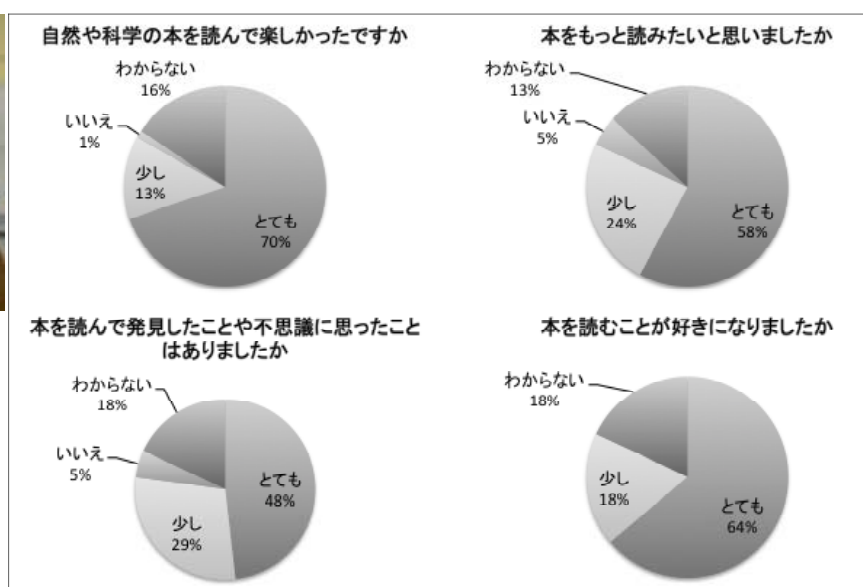


図2 児童へのアンケート集計結果

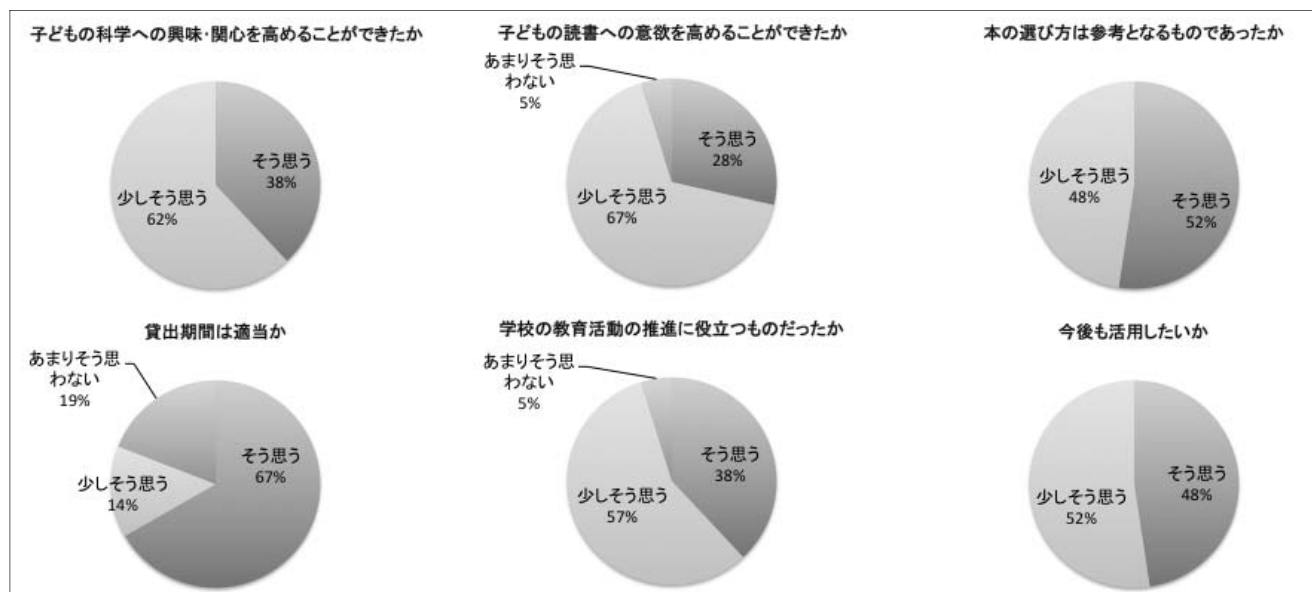


図3 教員（学校）へのアンケート集計結果